

CASBEE埼玉県

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 編纂(新編)2014年版、CASBEE 埼玉県2015年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	早稲田大学本庄高等学院 女子生徒寮(仮称)	階数	地上4F
建設地	埼玉県本庄市早稲田の杜一丁目1番	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域	平均居住人員	122 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年11月1日
敷地面積	2,509 m ²	作成者	株式会社山下設計
建築面積	1,419 m ²	確認日	2016年11月1日
延床面積	3,700 m ²	確認者	株式会社山下設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>JR上越新幹線 本庄早稲田駅前のバスターミナルに面して建つ、高校の女子生徒寮の計画である。将来にわたって、ここで生活を送る女子生徒の安心・安全な住環境を確保するため、すべての寮室を中庭に面して配置するとともに、中庭を中心としたワンウェイの給排気ルートを確保することで、省エネルギー性能にも優れた「次世代型の集住環境」の</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中庭を中心とした給排気ルートのワンウェイ化による新鮮外気の取り入れを実施。 	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度情報通信設備対応として、Gbitクラスのブロードバンド環境を整備。
<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物としてできる断熱性能を確保し、機器・器具の選定においても高効率の製品の採用に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル資材の採用。 ・有害物質を含まない建材の採用。
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラス部のフロストシート貼りにより光の拡散性を高め、グレア対策を実施。 ・敷地内の積極的な緑化による地表面熱負荷の低減を図

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される